

特別活動 活動計画案

1 活動名 みんなでチャレンジ！～いきいき〇〇集会～

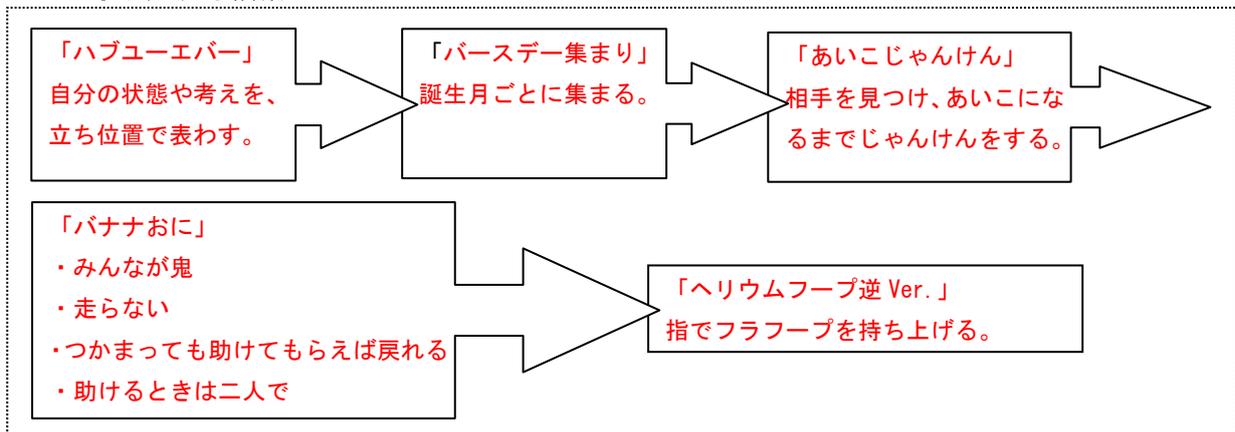
2 単元について

本校は、児童数35名（男子17名、女子18名）の小規模校である。そのため、特別活動においては一人ひとりに役割が与えられ、力を発揮することのできる場面が多い。そして、与えられた役割には一生懸命に取り組み、最後までやり遂げることができる。また、複式学級や縦割り班活動での経験で、異学年での活動にも慣れ、学年の枠を超えて仲良く活動することができる。しかし、入学前から知っている友達同士なので、多少言葉足らずでも意思が通じたり、慣れのために自分本位な行動をしてしまったり、「リーダーならこの人」「〇〇が得意なのはこの人」というように児童間で人間関係の固定化や暗黙のうちの役割分担が見られる。また、自分で考えて行動したり、学校外に出て活動したり、自分から人とかかわったりという積極性に課題がある。

AFPYは、OBSやPAの手法を取り入れ、山口県独自の取り組みとして開発された体験学習プログラムである。AFPYの主なねらいは、様々な活動を通して、一人ひとりが思いやりの心や挑戦する意欲を高めながら、互いの信頼関係を深め、対人関係能力を向上させることにある。子どもたちにとっては、様々な活動を通して、楽しみながら、自己肯定感や対人関係能力を向上させることができることを考える。また、子どもたちの状態を把握しながら、それに適した活動を継続的に仕掛けることにより、よりよい人間関係を築いていくことができることを考える。

そこで、指導に当たっては、言葉を介してお互いが積極的に関わるような活動を取り入れたい。活動の段階として、まず、学年の枠を超えて仲良く活動できるというよさを十分活用できるよう、知り合う活動や、緊張を解きほぐす活動から始めていきたい。一人ひとりがリラックスした状態で活動を進めることで、自分の考えを出しやすくなり、それぞれのよさを発揮しやすくなりできるような雰囲気をつくりたい。次に、言葉を介してお互いが関わるような、課題解決を行う活動を取り入れていく。この活動をくりかえし行うことで、「自分もがんばった」「みんなで挑戦したらできた」というような個と集団の達成感、「〇〇さんのアドバイスがあったからできた」というような友だちとの関わり心地よさ、そして、話し合うことの大切さを感じることができるようにしていきたい。さらに、活動を通して感じたことをみんなで振り返り、互いの思いや良さを分かち合うことで、日常生活での言動の具現化に結び付けたい。

※取り入れる活動



3 本時案

(平成 22 年 11 月 10 日 (水曜日) 第 5 校時 於：広場)

- (1) ねらい 全校で活動する中で、いろいろな人と積極的に関わるとともに、異学年の中で自分の意見を伝えることの楽しさや大切さを感じることができるようになる。
- (2) 準備 むいぐるみ、フラフープ
- (3) 活動過程

活動の流れ・活動内容	子どもの意識の流れ	教師の支援
1 めあての確認	<ul style="list-style-type: none"> ・よし、やってみよう。 	
「見て」「聞いて」「感じて」「伝えて」みよう		
2 知り合うための活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ハブユーエバー ・誕生日集まり ・あいこじゃんけん <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・所属への安心感 ・集団活動の楽しさ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・どのあたりまで動いていいのかな。 ・〇〇さんは、あんな風に思っているのか。 ・自分と同じ誕生日の人はいるかな。 ・だれもいなかったらどうしよう。 ・相手と合うとうれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・だれもが答えやすいテーマを用意することで、活動への抵抗感をなくし、緊張をほぐすことができるようになる。 ・子どもたちのよさをしっかりとほめるとともに、活動に含まれる意味に気づかせるようにする。
3 緊張をほぐす活動 <ul style="list-style-type: none"> ・バナナおに <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの大切さ ・互いに支える心地よさ </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・だれか助けてくれるかな。 ・だれかをあてられたらいいな。 ・助けるほうが楽しいよ。 ・だれか一緒に助けようよ。 ・助けてもらえてうれしいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルールの確認を徹底し、安全に活動がおこなわれるようにする。 ・助けるときの条件を変えることで、様々な関わり方ができるようにする。
4 課題解決の活動 <ul style="list-style-type: none"> ・ヘリウムフープ逆 Ver. <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの大切さ ・グループによる達成感 ・グループへの所属感 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・指だけで持ちあげるのは難しいな。 ・だれか一人でも速かったり遅かったりしたら落ちてしまうよ。 ・みんなで工夫したらできたよ。 ・うまくいくように相談しようよ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・できた班には「成功の秘訣」を聞き、よさをほかの班に広められるようにする。 ・班のめあてを明確にさせ、活動をくりかえすことによって意見を伝え合う場を作る。
5 ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・バナナおにで、みんなが助けてくれてうれしかったよ。 ・班で協力して、フラフープが持ち上げられてよかった。 ・失敗してもみんながゆるしてくれてよかった。 ・失敗したけど、次はできてうれしかった。 ・みんなで声を掛け合えたことが楽しかった。 ・またみんなで協力してできることがしたいな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出てきた意見を認めることで、自信をもって発言できるようにする。 ・子どもたちが気づかなかったよさも取り上げ、新たな視点を意識できるようにする。 ・活動の中で感じたことを、日常生活の中で実践できるような意味付けを行う。